

2025. 6. 18

## 失われるシニアの旅行消費

～シニアの旅離れはなぜ起きているのか～



経済調査部 エコノミスト

木村 彩月

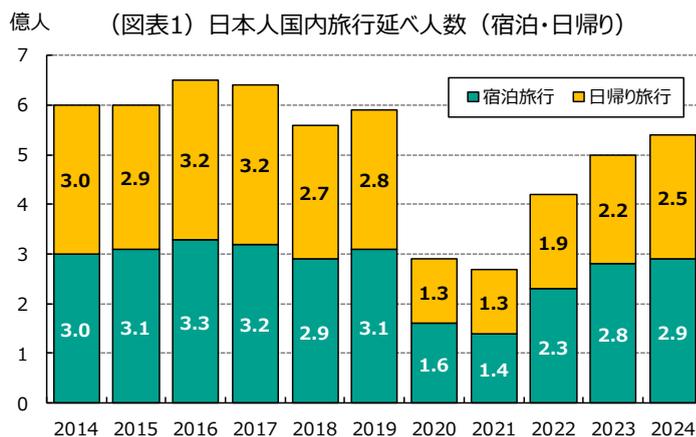
### ポイント

- 日本人国内旅行者数はコロナ前を下回っており冴えない。年代別に見るとシニアの旅離れが鮮明
- 宿泊料をはじめとする物価高は日本人の国内旅行の重石となっているとみられるが、他の世代と比較してシニア世代で経済状況や消費者心理が顕著に悪化している様子は確認できない
- 観光業界のDX化により利便性が向上したとされているが、シニア世代ではサービス利用上の困難や情報格差が拡大。旅行をためらう要因に
- 課題はデジタル端末の有無でなく、そのアクセシビリティにあると考えれば、シニアが迷わず安心して使えるデジタルサービスの提供を進めていくことがいっそう求められる

### 1. 旅行者数ベースではコロナ前を下回る日本人の国内旅行

国土交通省観光庁の「旅行・観光消費動向調査」によれば、2024年の日本人国内旅行（宿泊旅行・日帰り旅行の合計）消費額は25.2兆円と、コロナ前となる2019年（22.0兆円）比で+14.1%となり、過去最高額を更新した。

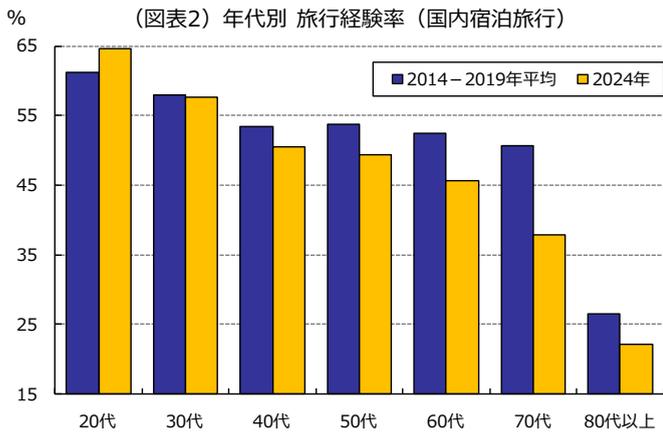
もっとも、延べ旅行者数は2016年に6.5億人で過去最高となった後、昨年は5.4億人とどまっており、2019年（5.9億人）を依然▲8.5%下回っている。好調なインバウンドに対し、日本人による国内旅行は伸び悩んでいる（図表1）。



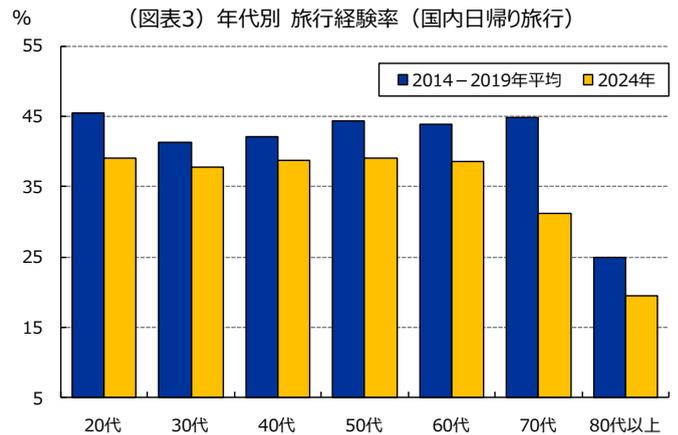
（出所）観光庁「旅行・観光消費動向調査」

### 2. 旅行に行っていないのは誰？

同調査のデータより、観光・レクリエーション目的で1泊以上の国内旅行をした者の年代別の人口に占める割合を2014-2019年平均と2024年とで比較すると、20代が上昇する一方、40代以上では低下している（図表2）。なかでも、70代（2014-2019年平均：50.7%→2024年：37.8%）を中心に60代以上で低下幅が大きく、世代間格差が拡大していることが分かる。国内の日帰り旅行でも70代（2014-2019年平均：44.9%→2024年：31.2%）の低下幅が最も大きい（図表3）。



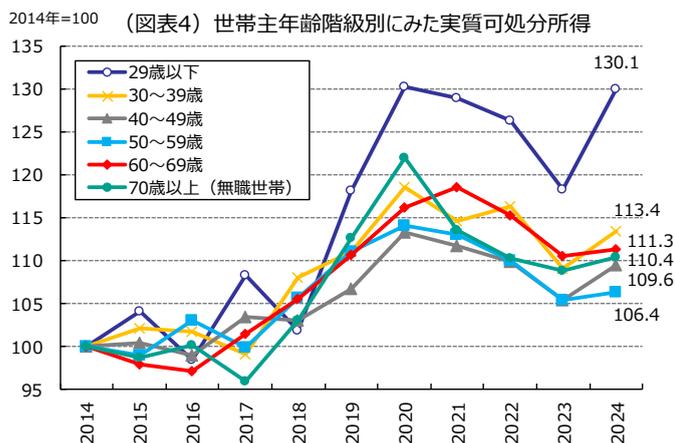
(出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査」より明治安田総研作成



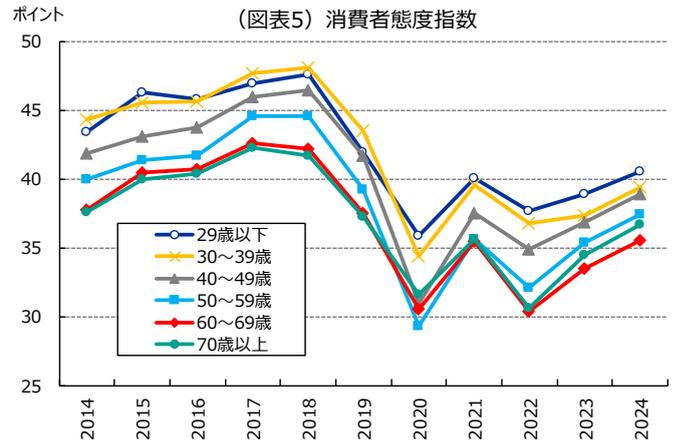
(出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査」より明治安田総研作成

この背景として、昨今の物価高騰がシニア世代の旅行意欲に水を差している可能性が考えられる。ただ、経済状況を見ると、他の世代以上にシニア世代で消費者心理や経済状況が悪化している様子は見受けられない。「家計調査」で二人以上世帯の実質可処分所得（名目可処分所得を消費者物価指数（帰属家賃を除く）CPI で実質化）の推移を追うと（図表4）、2020年に特別定額給付金の効果で一時的に増加したものの、2021年から2023年にかけては物価高の影響などから低下した。もともと、10年前となる2014年との比較では、就業率の上昇などを背景にすべての年代で世帯の実質所得は増加している。60～69歳や70歳以上（無職世帯）のシニア世帯の増加幅は30～39歳を下回るものの、50～59歳や40～49歳を上回っており、20代を除く現役世代と比べて大きな差があるとは言えない。

今後の暮らし向きや収入の増え方等の回答に基づく消費者態度指数を見ると、2019年の消費税率引き上げや2020年のコロナ禍で大きく落ち込んだ後も回復ペースは鈍い。もともと60～69歳や70歳以上の水準は相対的に低い。2019年と2024年との差を見ると、60代は▲2.0ポイント、70代は▲0.6ポイントであるのに対し、最も悪化しているのはむしろ30代（▲4.1ポイント）である（図表5）。これらの調査・統計を見る限り、シニア世代における旅行離れは経済的な理由だけでは説明しきれず、他の要因が影響していると考えられる。



(出所) 総務省「家計調査」、「消費者物価指数」より明治安田総研作成



(出所) 内閣府「消費動向調査」より明治安田総研作成

### 3. 観光DXが阻むシニアの旅消費

経済的な問題以外では、根強い感染症への不安といったさまざまな要因が考えられるものの、観光DXの進展がシニア世代の旅を阻んでいる可能性も見逃せない。コロナ禍を境に観光業界の仕組みは大きく変わった。シニア世代では旅行代理店を通じたパッケージツアーの利用も多いと考えられるとはいえ、感染症対策に伴う非接触化や、ますます深刻化する人手不足、インバウンドの急拡大によるオーバーツーリズムといった新たな課題に対応するため、観光・宿泊施設、交通機関では積極的にDX化が進められてきた。電子チケットやWebパンフレット

トへの移行、スマートチェックイン（QRコード等を活用したチェックイン）の導入など、スマートフォン等デジタル端末の活用ありきの予約や決済、入場管理といった仕組みが観光地で標準化されつつある。こうしたデジタル化の進展により、利便性向上や業務効率化が進んだとされる一方、シニア世代ではサービス利用上の困難や情報格差が拡大していると考えられる。総務省の「情報通信機器の利用に関する世論調査（2023年）」によれば、スマートフォンやタブレットを「よく利用している」または「ときどき利用している」との回答割合は、70～79歳で57.7%、80歳以上で42.2%と、最も高い20～29歳との差がそれぞれ▲41.4ポイント、▲56.9ポイントと極めて大きい（図表6）。キャッシュレス決済についても60代から低下が目立ち始め、70代以降でその傾向は一段と強まる（図表7）。デジタルの壁はとりわけ70代以上が直面している。

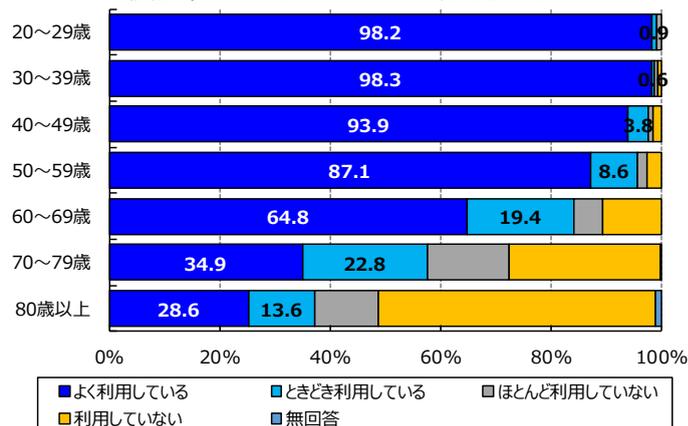
オーバーツーリズムによる混雑もシニアにとっては大きな障壁である。混雑した観光地では、トイレに行きづらくなったり、杖を使った歩行が困難になったりと身体的な負担が大きくなる。最近では、AIカメラ等を活用した混雑状況の可視化が進み、インターネット上やアプリで情報公開されることも増えた。シニアにとって混雑を避けて快適な時間帯やルートを選択することの重要度は高く、こうしたサービスは有用であると考えられるものの、デジタル操作に不慣れなシニアには届きにくい現状がある。

#### 4. シニアの旅意欲を実現させるために

観光庁が旅行に対する考え方について調査したアンケート結果を見ると、旅行が「最も大切な趣味」と回答した割合は60～70代で高くなっており（図表8）、シニアにとっては、旅行が引き続き人生を充実させる重要なライフスタイルであることが確認できる。

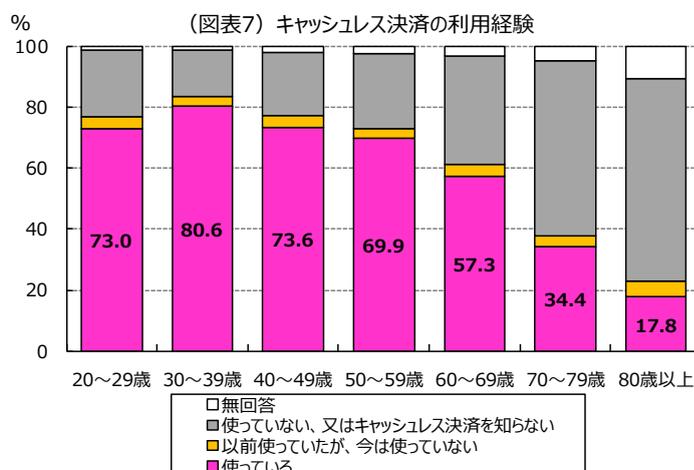
2024年の延べ宿泊者数全体に占める日本人・外国人延べ宿泊者数の割合を見ると、日本人宿泊者が約7割、外国人宿泊者が約3割となっている。三大都市圏を除く地方部に限っては日本人が9割を占めており、とりわけ地方部における旅行需要は日本人旅行者により支えられている。シニアの旅行参加を促進することは、地方を中心に観光産業の持続性に直結する課題である。日本人とインバウンドを合わせた延べ宿泊者数が2019年の水準をまだ下回っている県も多くあり、デジタルの活用が難しい人々にも寄り添った快適な観光体

（図表6）スマートフォンやタブレットの利用について



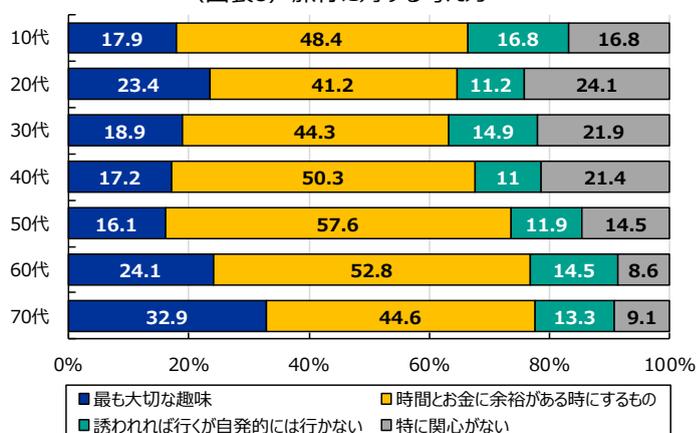
（出所）総務省「情報通信機器の利活用に関する世論調査」

（図表7）キャッシュレス決済の利用経験



（出所）消費者庁「消費者意識基本調査」

（図表8）旅行に対する考え方



（出所）観光庁「令和6年度観光の状況 令和7年度観光施策」より明治安田総研作成

験の提供により、旅行需要を底上げする余地はある。

観光庁はユニバーサルツーリズムの実現を掲げ、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して旅行を楽しめる環境づくりを目指している。もっとも、人手不足が深刻化するなか、従来のように紙のパンフレットや有人対応を増やすといった対応は、現実的な選択肢ではない。総務省の「通信利用動向調査（2024年）」によれば、世帯主年齢別に見たスマートフォンの保有率は60～69歳で93.5%、70～79歳で85.1%、80歳以上で62.5%と保有率で見れば低くない。なかには、画面の見やすさや操作手順の分かりやすさに配慮した設計が好評を得て、シニアの利用者数を伸ばしている旅行予約アプリの事例もみられる。課題はデジタル端末の有無ではなく、そのアクセシビリティにあると考えれば、視認性や操作性に優れたUIの設計など、シニアが迷わず安心して使えるデジタルサービスの提供を進めていくことがいっそう求められる。

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月

電話番号：03-6261-7947

e-mail：sa2-kimura@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元● 株式会社明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411